

最貧困層の自立へ希望を与える グラミン銀行マイクロクレジットの考察と今後の課題

— バングラデシュを事例として —

Grameen Bank Microcredit Creating Hope for the Poorest of Poor : The Challenge of New Problems
— A Case of the Grameen Bank of Bangladesh —

ジョマダル ナシル
Naseer JAMADAR

〈概要〉

本研究の目的は、グラミン銀行のマイクロクレジット・プログラムが草の根レベルにおいて事業を通してバングラデシュの最貧困層の生活向上と経済的自立を促すための役割を検証することにある。グラミン銀行が人間の尊厳を守り、人権の尊重に寄与している為、最貧困層の雇用、収入、自尊心をもたらすため無担保でマイクロクレジットを提供している。マイクロクレジット・プログラムのアプローチではバングラデシュや他の開発途上国の貧困者の社会経済状況は目に見えて変化している。さらに、この研究では、小規模ビジネスに直接関わったマイクロクレジットの借り手の実績を証明するとともに今後の課題について提言・提案をする。マイクロクレジットという言葉は、開発途上国では一般的な用語となってきた。極度に貧困な状況にある人々は彼ら自身の生活改善や自立の為に自発性は持っているが、お金を借りる為に担保になるものを持っていないので金融機関になかなかアクセスできなかった。グラミン銀行がその貧困層に無担保で小規模融資を提供した資金を元手に、貧しい人々が自助努力を積み重ねて生活向上と自立に向かっていく。最貧困層が収入を得るための多面的な活動を行なうことで社会経済状況が改善されることが期待される。小規模融資を受けた借り手の成功と失敗例を考察する傍ら今後の課題について注目していきたい。

1. グラミン銀行の歴史的背景

グラミン銀行総裁で創立者でもあるユヌス氏は米国で博士号を取得後、1974年、バングラデシュに帰国してチッタゴン大学で経済学の教授として教鞭を執るようになった。教室で学生に講義をしている時に経済学に関する多くの問題を黒板で理論的に解決できても、教室から一歩外に出ると通り道には絶対的貧困に苦しんでいる人々が溢れている状況があった。そして、自分が教室で学生に教えている経済学が実際の社会にあまり役に立ってない事に疑問を持つようになり、大学近辺にあるジョブラ村で貧困の主な要因について担当ゼミナールの学生達とともに最貧困層を対象に調査研究を始めた。ジョブラ村の女性達は仲買人から材料をもらって一日中、竹細工の作業をしても作業代として自分の手元に残るお金はわずかであった。自分達で材料が購入できれば竹細工の売り上げ全額が自分のものになり、収入も何倍にも増やすことができるはずだ。極度に貧

困な状況にある人々は彼ら自身の生活改善や自立の為に自発性は持っているが、お金を借りる為に担保になるものを持っていないので金融機関にはなかなかアクセスできない事が明らかになった。ユヌス氏はこれらの女性達に注目してポケットにあったわずか27米ドルを42人の女性達の竹細工の材料購入代として貸し始めた。これが今日のグラミン銀行の始まりである。グラミン銀行はお金を貸すだけではな



写真：GB,1983年、借り手が小規模融資を受けている風景

く、女性達に労働の機会を提供している。どんなに貧しくても人には何らかの技能があり、それを資本化して事業を起こす「起業家精神」が必ずある、というのがユヌス氏の考え方である。その後、ユヌス氏は実行可能なバンクネットワークの農村の人々にもたらす可能性を探った。土地を持たない人々が適切な期間と状況の中で資金が運用できるようになれば、貧しい人々が自助努力を積み重ねて、とてつもなく大きな発展が遂げられるだろうとユヌス氏は考えた、その結果、1976年、この計画は「農村開発研究プロジェクト」と名づけられ、下記のような目的とともに形となっていった。

- 1) 貧困層に対し、農村銀行の整備を拡張する。
- 2) 貸金業者による貧困層への搾取を排除する。
- 3) 農村における莫大な未開発の人的資源に対して自ら収入向上活動を行う機会をつくる。
- 4) 教育を受けていない人達を何らかの形式を持った組織の中へ連れて行き、彼らにその形式を理解させ、利用できるようにする。そして、そこから相互協力を通して社会政治や経済の強みを見つけられるようになってもらう。
- 5) 昔の悪循環「低収入 ⇒ 低貯蓄 ⇒ 低投資 ⇒ 低収入」から発展的システム「低収入 ⇒ マイクロクレジット ⇒ 投資 ⇒ より多くの収入 ⇒ より多くのクレジット ⇒ より多くの投資 ⇒ より多くの収入」へと変える。

このプロジェクトは1976～79年にチッタゴン地方のジョブラ村周辺でその強みを証明した。その後、バングラデシュの中央銀行をスポンサーとし、他の国営銀行からも協力を得て、1979年北部のタンガイル地方に広がった。タンガイル地方で成功した後は、1982～83年にかけてグラミンバンクプロジェクトはバングラデシュの首都のあるダッカ地方、ランプール地方（最北端地方）、ポットウアカリ地方（最南端地方）に広がった。1983年12月、農村開発研究プロジェクトは「グラミンバンク」の名で独立した銀行（Grameen Bank）となった。

1.1 小さなパイロットプロジェクト～巨大なグラミン銀行へ

- 1) 1976年、グラミン銀行プロジェクトはバングラデシュのジョブラ村でチッタゴン大学のアクションリサーチプロジェクトとして開始。当時、グラミン銀行創立者のムハマド・ユヌス教授はチッタゴン大学で経済学の教鞭を執っていた。
- 2) 1979年、バングラデシュ中央銀行のパイロットプロジ

ェクトとなる。

- 3) 1983年10月、グラミン銀行は特別法令により独立銀行として設立。
- 4) 2015年7月 銀行の持ち分96%は借り手の貧しい人々、4%は政府が所有する特殊銀行。
- 5) グラミン銀行の使命は、貧しい人々の生活から貧困を削減すること。

2. グラミン銀行とは

「グラミン」はベンガル語で「農村」という意味である。グラミン銀行の全ての活動が農村を中心に行われていることは「農村バンク＝グラミンバンク」という名前にも表れている。今では世界的にも「Grameen Bank＝グラミン銀行」と呼ばれるようになった。グラミン銀行のマイクロクレジット（小規模融資）の対象者は土地を持っていないか、殆んど持っていない村人達である。彼らは貸付金を受ける為に5人組を形成する。グループメンバー（ボロワー）は同じような教育、経済的状況、社会的背景を持たなければならない。家族が0.5エーカー以下の耕作地しか持たない人、あるいは家族が1エーカーの土地を持っていて、それがその地区で中程度の価値を持っていても、実際の市場価値に満たないという人であれば誰でも収入向上・営利活動をする為にグラミン銀行からマイクロクレジットを受ける資格がある。

3. マイクロクレジットとは

マイクロクレジット（小規模融資）とは、最貧困層の貧困削減や生活向上と自立などの目的で対象者に無担保で数千から数万円のローン（小規模融資）を行うことである。貧困層が金融機関からお金を借りる為に担保になるものを持っていないためマイクロクレジットを元手に自営業などを開始、あるいは拡大して収入を増やし、自活の向上や自立などが期待されている。ユヌス氏がグラミン銀行を設立する前に、「マイクロクレジット」という言葉を耳にしたこ



写真：GB, マイクロクレジットを使用してアヒルを購入

とがあったらどうか。今はバングラデシュを始めとする世界中の多くの国々ではマイクロクレジット‘モデル’を取り込むことにより、人間として尊厳をもって毎日の生活の中で最低限必要とされるもの（衣食住や基礎教育・保健医療など）にアクセスできるようになった。1997年のアメリカ・ワシントンで開催されたマイクロクレジット・サミットでユヌス氏は‘マイクロクレジットは人権の1つである’ことを主張した。そして、グラミン銀行のマイクロクレジット・プログラムを通じて無担保で最貧困層に融資を提供してそれを証明してきた。活動を通して有言実行を貫いている。さらに、ユヌス氏は現在、極度に貧困な状況に置かれている人達が貧しいのは彼達のせいではない、むしろ金融システムが複雑なために彼らがアクセスできないからである。いかなる貧しい人でもマイクロクレジットを受ける権利があるはずだと主張している。

3.1 グラミン銀行クレジットの特徴

- 1) グラミンクレジットを人間の権利として推進する。
- 2) グラミンクレジットのミッションは貧しい家庭が貧困から脱出する為に手助けをする。対象は貧困層、特に貧しい女性達である。
- 3) グラミンクレジットの明確な特徴は無担保で法的契約を持たない、銀行側と借り手の間の信頼の上に成り立つものであり、法的な手続きやシステムの上で成り立つものではない。
- 4) グラミンクレジットは貧しい人々に自営業で雇用を生み出す収入向上活動とハウジングローンを提供している。
- 5) グラミンクレジットは貧しい人達にクレジットを拒否してきた従来の銀行に挑戦的で独自の方式や方法論で運営している。その結果としてグラミンクレジットは従来の銀行の基本的な方法論には否定的である。
- 6) グラミンクレジットは戸口でサービスを提供する。グラミン銀行の基本方針は人々が銀行に行くのではなく銀行が人々のところへ行くことである。
- 7) グラミンクレジットを受ける条件としてボロワー(Borrower)はボロワーグループに参加しなければならない。
- 8) グラミンクレジットは、以前のローンが返済済みであれば継続的に新しいローンを受けることが可能である。
- 9) グラミンクレジットではすべての貸付金は毎週、または2週間毎に返済される。
- 10) ボロワーがグラミン銀行から同時に1つ以上のローンを受け取ることが出来る。

3.2 グラミン・マイクロクレジットプログラムの本質的特徴

- (1) 最貧困層に焦点を絞る
- (2) 戸口でのサービスを提供
- (3) 信用供与を受ける権利は人権として推進
- (4) 借り手は少人数グループを作る
- (5) 相互支援と密接な監視により、厳しい信用供与規則を守らせる
- (6) 強制および任意の貯蓄スキーム
- (7) バングラデシュ農村の貧困層、特に貧困女性に特化
- (8) 貧しい人が銀行に来る必要はなく、銀行が貧しい人のところにおもむく
- (9) すぐに収入を増やせるように自営業の機会を創出
- (10) 返済を緩やかにする場合、フレキシローンへ組み替え可能
- (11) 6ヶ月毎に、既存のローンに追加して新たなローンが組める
- (12) いつでも全額返済可能
- (13) 元金と利息が同時に支払われる（単利）
- (14) 借り手が死亡した場合、貸付金保険基金から相殺される
- (15) 個別貸付とグループメンバーは連帯責任の関係ではなく、債務不履行の場合でも連帯返済義務はない
- (16) 社会開発は不可欠

4. グラミン銀行の組織構造と目的

グラミン銀行の本部は首都ダッカにある。そして、7つの州と64県に40のゾーナルオフィス (Zonal office) と268のエリアオフィス (Area office) がありその下に銀行の支店がある。これらの支店をエリアオフィスが管理し、エリアオフィスはゾーナル (Zonal) オフィスの監督下にある。最終的に各村から集まってくる銀行業務（小規模融資関



写真提供：グラミン銀行本部

係)の様々な情報を支店、エリアオフィスなどに確認の上、ゾーナルオフィスが本店に伝える。

グラミン銀行の支店がゾーナルオフィスとエリアオフィスを通じて本部との業務を行なっているが、実際の銀行業務の拠点は各村のセンターにある。毎週の返済、借りが抱えている諸問題、新たなローンの相談及び要請をしたり、グラミン銀行の社会開発教育の一環である16原則について借手同士、または、銀行の行員との話し合いなどはセンターで行なっている。2015年7月現在、81,390村の人々が1,343,226グループと142,241のセンターを通じてグラミン銀行を利用し、バングラデシュのほとんどの村で868万人のボロワーがグラミン銀行から無担保でマイクロクレジットを受けている。¹ グラミン銀行のワーカーは毎週お金を回収し、メンバーの経済活動や生活改善状況を把握する為に朝から晩まで自転車で村から村へと走り回っている。グラミン銀行の規則では行員は全員が一日中村で活動する事になっている。勤務時間に行員が支店にいる場合、銀行の規則では働いていないと見なされることになっている。ただし、昼下がりに一度だけメンバーにお金を貸す為に支店に戻ることが許されている。142,241センターを全国にある2,568支店(Branch)オフィスが管轄する。最終的にはゾーナルオフィスが村から集まってきた全ての情報を本店に伝える。グラミン銀行は下記の目的を中心に運営している。

- 1) 農村の最貧困の人々に無担保で銀行業務を提供する。
- 2) 金貸しの搾取を撲滅する。
- 3) バングラデシュの大量の失業者に自営業の機会を創出する。
- 4) 不利な立場にいる人々が支え合い、自立的で社会的経済的開発が可能となるよう組織化する。
- 5) 長年の貧困の悪循環を少額融資で転換する。

5. グラミン銀行のマイクロクレジットの業務プロセス

グラミン銀行から無担保でマイクロクレジットの借手となる条件として、現住所に2つ以上の生活歴、同等の社会及び経済的地位にいる5人組グループを形成することがある。同じ家族から何名もグラミン銀行から小規模融資を借りることは可能であるが、親族関係は同じグループに入ることはできない。5人組のグループ形成メンバーはお金を借りる前にグラミン銀行の考え方、規則、手順について1~2週間のトレーニングを受けなければならない。そし

て、グループの一員として認められる為に口頭試験に合格しなければならない。借手になるためにグラミン銀行の規則(16原則)や手順を理解し、自分の名前が書けるようになり、その誠実さや真剣さでグラミン銀行のスタッフを納得させなければならない。

表1, グラミン銀行の借手(メンバー)になるための一連のプロセス

ローン	貯蓄
●グループ形成	●ローン申し込みの準備
●グループ研修	●ローン貸出
●グループ班長、副班長 センター長を選ぶ	●ローン利用
●グループとして承認	●ローン返済

各グループはリーダーと補佐を選出する。参加を義務づけられたマイクロクレジットの全ての借手を毎週のミーティングに参加させるようにするのが彼らの仕事である。表1にあるような一連のプロセスを全て終えてからグラミン銀行から無担保で融資が受けられることになる。同じ村で構成された6~8グループが集まったもの(30~40人で構成される)で村毎にセンターを構成する。グループリーダーの中から「センターチーフとチーフ補佐」が選ばれる。彼らは毎週センターミーティングを仕切り、貸付金の申し入れを伝え、借手の活動状況を把握して、グラミン銀行の行員の仕事を手伝っている。このセンターが村レベルでのグラミン銀行の活動のベースとなっている。マイクロクレジットの借手はセンターを通して銀行から金を借り、生活改善や自立の為に様々な収入向上活動を行なう。銀行の主なローンは下記の通りである。

1) ベーシックローン

ベーシックローンは年間を通じて借手があらゆる収入創出活動に使える。銀行と借手の間で合意すれば、どのような期間設定も可能である。また、ビジネスの内容によ



写真：グラミン銀行、借手の竹細工の作業風景

¹ Grameen Bank, 'Monthly update' July 2015

って、事前に返済スケジュールを組み、毎週の返済を自由に設定することも可能である。状況が困難になった場合、メンバーと銀行間で相談して返済のスケジュールが変更できるので借り手が多い。地理的条件や地域によるベーシックローンを使った活動は多くあるが、代表的な分野に農業、畜産業、小売業、雑貨屋、モノづくりなどがある。例えば、この数年間マッシュルームの栽培、野菜売り、養鶏、魚の養殖、仕立て屋、陶器、竹細工などの分野においてベーシックローンを使った借り手が多いのは事実である。

2) 住宅ローン

人間の生活において衣食住の中で住宅は必要不可欠である。貧困層にとって雨風を凌ぐため家は一番大事なものになる。グラミン銀行の16原則の中に「私たちはあばら家には住まない。まず、第一に家を修繕し、新しい家を建てるために働く」という文言がある。家は人々に空間とプライバシーを提供するとともに貧困層にとって住まいは作業場にもなる。農村の女性や子どもの為の住まいは家庭の地位向上の触媒として作用する。グラミン銀行は小規模融資を受けている借り手に住宅ローンを提供している。'2014年6月現在、69万戸が住宅ローンの利用により建設された。'²この住宅ローンプログラムに1995年、日本政府開発援助が円借款としてグラミン銀行に30億円を貸し付けている。



写真：グラミン銀行、住宅ローンで建てた家

3) マクロエンタープライズ・ローン

グラミン銀行の借り手の中で成功を収めた借り手は沢山いる。これらの借り手に対して銀行は農村での雇用と経済発展のためマイクロエンタープライズを進めてきた。すでに、様々な好ましい理由により、多くの借り手が急速にビジネスへと進んでいる。その理由とは、市場に近い、家族に事業の経験豊富な男性がいる等である。急速にビジネスへと進むメンバーのために、グラミン銀行はより融資額の大きい「マイクロエンタープライズ・ローン」を提供している。'2015年6月現在、グラミン銀行の借り手の中、668万人がマイクロエンタープライズ・ローンとして30億93万USドル'³の融資を利用している。



写真：GB、マイクロエンタープライズで購入したバス

4) 高等教育ローン

グラミン銀行の借り手の家庭にいる有望な子どもたちに高等教育を受ける機会を提供するための高等教育ローンプロジェクトである。このローンを受けるには条件がある。グラミン銀行から高等教育ローンを受ける全ての学生は「卒業後、仕事を探すのではなく高等教育機関で学んだことを活かして自分が主体になって事業を起し、他人に仕事を提供して雇用を生み出す」。在学中、利子は発生しないが、卒業後5%の利子を銀行側に払わなければならないというグラミン銀行独特の高等教育ローンである。2015年7月までに、様々な高等教育分野で53,340名の学生が銀行から教育ローンを受けている。

² Grameen Bank, 'Monthly Update' June 2014

³ Grameen Bank, 'Monthly Update' in June 2015, (<http://www.grameen.com/index>)

Box 1：静かな革命

一般的にイスラム社会（バングラデシュ）では女性名義の財産がないことが多い。グラミン銀行のハウジングローンの規定では、借り手本人の名義に最低20㎡の土地がない場合はグラミン銀行からローンを受けることができない。初期の頃マイクロクレジットへの参加に反対していた夫達は、今では親から貰った大事な土地を妻名義に変更することを拒まない様になった。これはイスラム社会のバングラデシュでは革命的なことである。村レベルでは政治的な面においても静かな革命が起きている。グラミン銀行のメンバーが直接選挙によって村長になった数は毎年少しずつ増えている。これらのメンバーが最近の総選挙でも大きな役割を果たすようになってきている。特に、グラミン銀行のメンバーが活発に活動している地域ではジャマティ・イスラミ党（イスラム原理主義）の国会議席が毎年減っていることが明らかになっている。



写真：GB, ユヌス氏から高等教育ローンを受け取る

5) 物乞い自立支援プログラム (ローン)

グラミン銀行は世界的に注目されていると同時に国内において共産党、イスラム原理主義や一部の学者・知識人などから様々な批判を受けている。その都度、それぞれの批判に対してユヌス氏始めグラミン銀行の関係者はグラミン銀行の理念と思想に基づいて説明してきた。時にはチャレンジを受けたこともある。共産党は貧困層が銀行から恩恵を受けて最低限の生活ができるようになると革命を起すににくい。イスラム原理主義の視点で物を考える人達は、グラミン銀行が活発に活動をすればするほど女性のエンパワーメントがこれ以上に進むと彼らにとって面白くない都合が悪いようである。もちろん、これらの批判に対してグラミン銀行側が一々反論するのは時間の無駄だと思って無視したこともある。数年前から新たな批判として出てきたのは、「グラミン銀行は貧者の銀行というが、絶対的貧困の状況に置かれている人々のためには何もしてないじゃないか。」グラミン銀行はこの批判に対して挑戦することにした。バングラデシュでは一番貧しいと言われる人達は乞



写真：グラミン銀行，物乞い～もの売りへ転換

食をして生活している人達である。グラミン銀行はそれらの人達を対象に小規模融資の提供をすることにした。物乞いを対象としたグラミン銀行のプログラムで融資を受けているメンバーは10万人を超えている。

このプログラムの特徴は下記の通りである。

- ① 借り手はグラミン銀行の規則（16原則）やシステムの対象になっていない（守る義務はない）。
- ② 全ての融資は無利子である。返済にも期限を決めていない，本人が返済したい時でいい。
- ③ 物乞いをしている人達は自己負担なしで生命保険とローン保険に入っている。
- ④ グラミン銀行のグループやセンターに物乞いをしている人達のパトロンになるよう推奨している。
- ⑤ 全てのメンバーにグラミンのロゴの入っているバッジを持たせている，このバッジは彼らがグラミンのメンバーであることを証明する。
- ⑥ グラミン銀行側は物乞いをしている人達に辞めるようなアドバイスはしない。かわりに副収入を得られるよう努力することを勧めている。

6. グラミン銀行と一般銀行との違いは？

一般の銀行の場合，銀行はお金を持っている人に担保や保証人を通じてお金を貸す。そして，借り手が銀行に出向いて厳しい審査や手続きを踏まなければならない。一方，グラミン銀行はいかなる貧しい人でも金融機関からお金を借りる権利があると考えている。グラミン銀行の場合，一般の銀行にアクセスできない最貧困層の尊厳を尊重した上で信頼して無担保でマイクロクレジットを提供している。

表2, グラミン銀行の利率

ローン	貯蓄
●事業ローン：固定金利10% (20%定率法)	●貯蓄：8.5%
●事業ローン：8%	●定期預金：8.75%～9.50%
●高等教育ローン：在学中-0% 卒業後-5%	●7年後に倍額：10.40%
●物乞いメンバーへのローン：0%	●定期預金(5年物)：月々の利子10.20%
●センター・ハウスの建築：0%	●定期預金(10年物)：月々の利子10.20%
	●グラミン年金貯蓄(5年物)：10%
	●グラミン年金貯蓄(10年物)：12%

Box 2：グラミン銀行のユニークなアプローチ

グラミン銀行からローンを受ける為の審査に合格してお金を借りた後，初めて大金を手にした後，緊張して行員にアドバイスを求めてくる借り手がいる。そういう借り手に対して銀行創立者ユヌス氏の教えは「私達はお金をたくさん持っているが，いいアイデアは持ってない。もし，私達がいいアイデアを持っていたら，貴方にお金を貸さないでこのお金でもっとお金を儲けているだろう」。同銀行は最貧困層に無担保で融資を提供するが，借り手に対して提言・提案などしないようにしている。むしろ個々の潜在的な能力を活かして自助努力で自立へ道を切り拓いて欲しいという事である。

そして、行員が自ら借り手の戸口へ行き、借り手は簡単な手続きで小規模融資を受けることができる。さらに、グラミン銀行の株主になれるのは借り手のみである。グラミン銀行は法的な手段を持たず、信頼関係の上で成り立っている最貧困層のための銀行である。

7. グラミン銀行自身の経済的自立のために

グラミン銀行から小規模融資を受けている借り手は自立して貧困から脱出することを指すとともに、グラミン銀行自身も経済的自立（自己資金）のことを意識して行動するようになった。1995年、グラミン銀行は運営資金の為にドナー、国際機関、国内外の金融機関などに要請をしないことを決定した。1995年以降、グラミン銀行は財源の為に何処にも資金を要請していない。この間、グラミン銀行はボロワーや一般の人々から貯金を預かることにより資金面で巨大銀行となった。グラミン銀行はボロワーにマイクロクレジットを提供することにより自助努力で生活改善や収入向上へのモチベーションとなっていると共に、銀行自身の自立の為に次々に新たな企業やNPO（特定非営利活動法人）を起こしている。これらの企業とNPOはグラミンファミリー（Grameen Family）と呼ばれている。その中でもグラミン銀行が設立した代表的な携帯電話のベンチャー企業「グラミンフォン」は南アジアのどの会社よりも多くの加入者（5千万人以上）を持っていると言われている。

8. グラミン銀行マイクロクレジット成功の秘訣

現在、バングラデシュのグラミン銀行に868万人の借り手がいて返済率は98.33%である。最貧困層のこのような返済率の秘訣に興味を持っている人は少なくない。いったいその背景に何が機能しているだろうか。グラミン銀行の成功の秘訣として下記の5点が挙げられる。

1) グラミン銀行の規則（16原則）やシステムを借り手が厳密に守っている。

グラミン銀行の社会開発教育の一環として16原則を導入している。毎週センターでの返済の際、銀行システムを借り手に細かく指導している。例えば、毎週の返済時期に返済しなければ、次の週になった場合、返済額も利率も増えていくので借り手が融資を受けている時の返済スケジュールを厳密に守っている。

2) 5人組で一つのグループと毎週の返済が小規模融資に機能的に活躍している。

社会、経済、文化的背景が似ているのでグループの絆が一番重要であると思われる。そして、お互いに良き相談相手だけではなくグループの中で誰かが困っていることがあれば全員で助け合う精神が強まっている。そして、事業から安定的に収入がないため返済に困っている仲間がいれば他のメンバーと一緒に協力している。

3) 借り手のニーズと状況を把握してマイクロクレジットを貸し付けている。

グラミン銀行から小規模融資を借りる時、借り手は銀行側の厳しい審査と面接などに合格しなければならない。グラミン銀行は借り手のニーズと家族の状況をよく把握して融資を提供している。例えば、牛の購入を希望している借り手なら牛の世話、ミルクの販売などについて細かいことを確認する。

4) グラミン銀行は行員より借り手の方が融資の使い途の細かいところを把握しているから。

グラミン銀行はNGOと違って借り手に訓練や研修を提供しない。個々の潜在の力を活かして自立の為に自発性を持っているが、担保になりえるものを持ってない為、金融機関になかなかアクセスできない人達に資金を提供しているだけである。大体の借り手は親からまたは弟子入りして身につけてきたノウハウを使用して何かしらの事業を起こしている。

5) 貸付後の借り手に対する行員の透明性と親身なモニターリングが機能している。

グラミン銀行行員は朝から晩まで自転車で村中を走り回り、借り手の事業について口を出さないもののモニターリングは行なっている。行員の活動の透明性と監視役ではなく親身なモニターリングが借り手にとって心強いものとなっている。そして、行員と子どもの奨学金、有望な子どもへの高等教育ローン、医療サービスへのアクセスなどについて気軽にさまざまな相談も受けている。

9. グラミン銀行の16原則

- 1) 私たちはグラミン銀行の4つの原則に従い、私たちの人生のあらゆる歩みの中でこれを推進する。規律、団結、勇気、そして勤勉。
- 2) 繁栄は家族のために
- 3) 私たちはあばら家には住まない。まず、第一に家を修繕し、新しい家を建てるために働く。

- 4) 私たちは一年を通して野菜をつくる。私たちはそれらを豊富に食べ、余った分を売る。
- 5) 私たちは耕作期にはなるべく多くの種をまく。
- 6) 私たちは家族を増やしすぎないように計画する。支出をおさえ、健康に気を遣う。
- 7) 私たちは子ども達に教育を受けさせ、子ども達の教育費を払えるようにする。
- 8) 私たちは常に子どもと周囲の環境を清潔に保つ。
- 9) 私たちは適切なトイレを作り、それを使う。
- 10) 私たちは沸騰させてから水を飲むかミョウバンを使う。ヒ素除去のための水差しフィルターを使う。
- 11) 私たちは息子の結婚式で持参金をもらわず、娘の結婚式にも持参金を持っていかない。私たちのセンターを持参金の呪縛から解放する。私たちは児童婚をさせない。
- 12) 私たちは誰に対しても不正義を行わず、また他人が不正義を行うことも許さない。
- 13) 私たちはより多くの収入を得るため、共同で大きな投資をする。
- 14) 私たちは常にお互いを助け合う。もし誰かが困難に陥ったら、私たちは全員でその人を助ける。
- 15) もしどこかのセンターで規則違反があることを知ったら、私たちはそこへおもむき規則の回復を手伝う。
- 16) 私たちはすべての社会活動に共同で参加する。

10. グラミン銀行のマイクロクレジットを通じた女性のエンパワーメント

長い歴史や伝統の中で、農村社会では女性は家の中（子育て、家事）、男性は外（生活費を稼ぐ）で働くことが主流だった。そのため女性の社会的、政治的、経済的、文化的状況などを変えていくことは非常に困難であった。そのような状況の中、1983年にグラミン銀行が村にやってきた。初期の頃は家族をはじめ、村社会も女性と銀行との関わりに反対していた。しかし、グラミン銀行のモチベーションにより村の女性がマイクロクレジットに興味を示し、やがて家族の賛同を得て積極的に関わるようになった。



写真：GB, 女性達が意志表示できるようになった

た。貧しい人々が5人でひとつのグループを作り、グループの中でお互いに連帯保証人となり無担保でお金を借りるというシステムが採用されている。銀行のローンは毎週少しずつ返すことになっているが、返済率は98.33%と高い割合を維持している。全体の借り手のうち97%以上は女性である。小規模融資を受けることで自分たちが昔から持っているインディジナス・ノウレッジ（代々親から子、子から孫へと受け継がれている知恵と知識）を活かしてアヒル、ニワトリ、ヤギ、牛などを育てたり、野菜の栽培をしたり、村で小さな店を開くなどして現金収入が得られるようになった。これにより、貧困削減と同時に家族の中で自分達の地位が確立できるようになった。グラミン銀行から無担保でマイクロクレジットを受けることにより、女性達が経済的に自立し、さまざまな社会や政治活動にも積極的に参加することによって自分達が対等な立場で意志表示できるようになった。このようなことは今まで開発途上国の農村で暮らす女性の生活の中で考えられなかった。グラミン銀行は女性と開発、ジェンダーと開発という理論やアプローチよりもさらに実践的に女性のエンパワーメントに静かな革命を起こしているとも言える。

11. グラミン銀行の貧困削減および女性のエンパワーメントの効果

これまでに、68%のグラミン銀行メンバーが貧困ラインを脱却した。世界銀行の報告によると、バングラデシュでは毎年マイクロクレジットの借り手の5%が貧困ラインを脱却している。マイクロクレジットの返済率は常に従来の商業銀行よりも高い。マイクロクレジットは貧しい女性が制度としてのローンを受け、自営業者となり金融資本を得ることを可能にした。マイクロクレジットは貧しい女性がお金を貯め、貯蓄の所有者となることを可能にした。グラミン銀行の借り手の貯蓄5億2,400万USドルは、これら借り手の経済的エンパワーメントの良い事例である。マイクロクレジットにより創出された市場の需要増加と、その前後のつながりが経済を後押ししている。グラミン・マイクロクレジットは信頼と協力により成り立つものである。また、マイクロクレジットは家庭および社会における女性のリーダーシップの役割を奨励する。マイクロクレジットは自営業者を創り出すため、貧困削減と経済開発に直接的且つ永続的な影響をもたらす。女性の収入創出活動への参加を促し、自分の運命を自分で切り開くようになる。貧しい家庭の収入増加は健康と衛生状態、子どもの教育、社会及び政治への意識の観点からより改善された生活に貢献する。前回のSub-district（地区）地方議会選挙では、85名のグラミン銀行の借り手の女性が副議長として選ばれた。



写真：GB, 地方議会選挙で当選した借り手達



写真：GB, Telephone-LadiesのInternet屋

グラミンは農村の貧しい人々が集団交渉という意味において、積極的に政治に参加することを可能にした。また、女性が政治の主流に参加し、自分達の投票権への意識も目覚めさせた。グラミン銀行システムを通じてリーダーシップを開発している。そのプロセスは下記の通りである。

- 1) グラミン銀行の借り手は定期的にリーダーシップ開発システムを経験する。
- 2) グループとセンター長は、グループとセンター内の投票により毎年交代する。
- 3) グラミン銀行役員はボトムアップの投票システムにより3年毎に交代する。
- 4) リーダーシップ開発は、グラミン銀行の借り手の自分の生活だけでなく子どもたちの生活を設計する自信を与える。
- 5) グラミン教育ローンは教育によるより良い将来へのスコープを開いた。
- 6) 借り手のリーダーシップ開発とは、より健康的な生活スタイルのマニフェストである。つまり、より良い住宅と衛生環境、清潔な飲料水、子ども達の教育、健康への認識、社会・政治問題等。

12. 携帯電話とインターネットサービス事業による貧困削減

近頃では携帯電話は私達の日常生活において必需品となっている。バングラデシュではグラミン銀行が携帯電話を貧困削減の手段として利用している。グラミン銀行が起こしたビジネスエンタープライズの中で携帯電話会社(Grameen Phone)が最も注目を浴びている。1996年、グラミン銀行は日本の丸紅とノルウェーのテレノールとベンチャー会社を設立した。Grameen Phoneはわずか15年間で5000万人以上の加入者にサービスを提供し、南アジアで最大の携帯電話会社となった。そして、グラミン銀行

の100万人の借り手が固定電話の普及していない農村部でTelephone-Ladiesとしてビジネスを展開し、高収入を得て貧困から完全に脱出するようになった人も少なくない。Telephone-Ladiesの中には月収が大卒の初任給より多い人も最近では珍しいことではない。‘今日、情報通信技術は、製品やビジネスプロセスを貧困層市場に適応させるのに大きな役割を果たしてきた。’⁴数年前、早稲田大学での講演後、ある研究者がユヌス氏に次のような質問をした。‘読み書きすら出来ない農村女性に最新技術を持たせて、どうやって商売が成り立つのですか。’この質問に対してユヌス氏の答えは“これはそれ程難しい問題ではない。電話をかける為に10桁の数字を覚える必要はあるが、それを農村女性に教えればTelephone-Ladiesの事業が成り立つはず。”グラミン銀行のファミリー企業は既に全国レベルでInformation Communication Technology (ICT) 教育を展開してきた。最近では農村部の多くの中・高生が利用できるように村レベルでインターネット事業を促進している。

13. グラミン銀行は借り手の貧困状況を下記の10項目を指標として評価している

毎年グラミン銀行の行員は彼らの仕事とメンバーの社会的経済的な状況に改善があったかどうかを調べる。グラミン銀行はボロワーの貧困状況を評価する為に下記の10項目を指標として評価する。グラミン銀行のメンバーの家族が下記の基準を満たせば、そのメンバーは貧困から脱出することができると考えている。

- 1) 家族が少なくとも400ドルの価値のある家に住んでいるか、あるいはトタン屋根のある家に住み、家族全員分のベッドがあること。
- 2) 家族全員に掘り抜き井戸から汲み上げたきれいな水や煮沸かみょうばんで消毒した水、錠剤やフィルターでヒ

⁴ 国連開発計画(編)、吉田秀美(訳)「世界とつながるビジネス」英字出版、2010年、p.80

素を取り除いた水へのアクセスがあること。

- 3) 6歳以上の子ども全員が小学校に通っているか、小学校を卒業していること。
- 4) ボロワーの毎週のローン返済額は200タカ（1タカ=1.6円）以上であること。
- 5) 家族全員が清潔なトイレを利用すること。
- 6) 日常生活で使う家族全員の冬物の衣類（ショール、セーター、毛布など）や蚊から身を守る為の蚊帳を不足なく持ち合わせていること。
- 7) 家族に何かあった時に使えるよう、野菜や果物などを栽培して副収入源を持つこと。
- 8) ボロワーは年間を通して平均500タカの貯金を持つこと。
- 9) 年間を通して家族全員が問題なく三度の食事を摂っていること。例えば、1年間、家族の者が空腹を経験していない。
- 10) 家族の者が病気になった時に医療機関のサービスを受けられると共に治療代が支払えること。

14. ソーシャルビジネス エンタープルヌールと貧困削減

最近、ユヌス氏がSocial Business Entrepreneur（社会的ビジネス起業家）の育成に一番力を入れている。開発途上国では工業・産業が発展してないことから雇用の機会が少なく、教育を受けても中々仕事が見つからないのが現状である。グラミン銀行は融資を受けている借り手だけではなく一般の人々に対しても‘仕事を探すのではなく、自らエンタープルヌール（起業家）になって仕事を生み出すことを勧めてきた。’既に、銀行の多くの借り手が事業を拡大して農村部において地域の人々に様々な分野で雇用の機会を提供するようになった。1996年、Grameen-Danone Foodsというソーシャル ビジネスエンタプライズがベンチャー会社として設立された。この会社の目的は、バングラデシュで栄養不足で成長が困難になっている子供の親（低所得者）がアクセスできるように食品の値段を設

定し、利益は地域コミュニティーの人々が共有できるようにデザインした。企業の社会的責任とも言える。ユヌス氏が2006年、オックスフォード大学のビジネススクールで‘Social Business Entrepreneurs Are the Solution’⁵というテーマで講演をした。この講演はオックスフォード大学ビジネススクールの関係者以外の経済界にも大きな反響があったようだ。

15. グラミン銀行設立者の新たな挑戦：貧困を博物館へ

ユヌス氏は言う。“私は貧困と関わりを持ったのは政策立案者としてでもなければ研究者としてでもない。私の回りにあった貧困の存在が無視できなかったからである。経済学の授業では素晴らしい理論、黒板の上ではどんな難しい問題を簡単に解決できても、それらは現実にバングラデシュの飢餓、貧困問題の何の解決にもならなかった。教室で教える経済学の優れた理論ではなく、例え一人の困っている人の手助けができればよいと思って直ちに行動を起こすことを考えてこの活動を始めた。” 1960年代の「トリックル・ダウン（下の方に浸透していく）」アプローチと1970年代の半ば頃から、アメリカや世界銀行などによって貧困層の生活改善を直接のターゲットとした「ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）」のアプローチが開発途上国の貧困削減に大きな役割を果たせたとは言えない。1980年代、ユヌス氏がバングラデシュで設立したグラミン銀行のマイクロクレジットアプローチはバングラデシュだけではなく、今やアジア、アフリカ、北アメリカ、ラテンアメリカなどの多くの国々で貧困削減のツールとして浸透して、現在、39カ国147の地域でマイクロクレジット‘モデル’が導入されている。そして、世界中から注目されるようになった。

1983年、グラミン銀行が設立当時の借り手の数を目標は200万としていたが、今現在868万人以上の人々が利用している。銀行の16原則のお陰で借り手の子ども達は皆学校に

⁵ Muhammad Yunus, ‘Building Social Business’ The University Press Limited, Dhaka, p. 4

Box 3：グラミン銀行中毒！

一般的にアルコール中毒、麻薬中毒という言葉を目にしたことがあっても、恐らく銀行中毒という言葉は聞いたことはないだろう。グラミン銀行が創設して30年の月日が経過した。この間、グラミンクレジットを受けて失敗した借り手もいるが、成功したボロワーの数のほうが圧倒的に多い。それらの成功者に「生活の改善と収入向上ができて自立しているのに、なぜ今もグラミンクレジットを受けているの？」と訊くと、「グラミン銀行から融資を受けなくても十分にやっつけられるが、毎週のセンターミーティングに（毎週の返済日）参加しないと生活のリズムがおかしくなってくるから、必要なくても毎週のセンターミーティングに出る為融資を受けている。グラミン銀行中毒だよ！」

通えるようになった。優秀な子どもはグラミン銀行から高等教育ローンを受けて医者、弁護士、エンジニアになっている人も少なくない。グラミン銀行は以前から農村においてICT教育も推進している。ユヌス氏はオスロでのノーベル平和賞の受賞式でも今抱いている夢について語っている。今までは貧困なき世界を目指してきたユヌス氏は今度次世代に日常生活では貧困を見られないようにしたい。将来、かつて先祖が苦しんでいた貧困の状況を彼らは博物館に行き勉強をすることにした。ユヌス氏はそれをただの夢物語ではなく、皆がそれに向かって努力すれば実現可能だと考えている。

この考え方と制度は、今や国境を越えてインド大陸からアジア全域、中東、北アメリカ、中南米へとひろがっている。このようなユヌス氏の業績については、すでに「アジアのノーベル賞」と呼ばれているマグサイサイ賞はじめ、日経アジア賞など数々の国際的な賞が贈られている。ユヌス氏の業績については貧困を民主主義と人権を否定するものとして捉え、それからの脱出のため、最貧困層が人間として尊厳を持って生きる権利に依拠した'マイクロクレジット'という手法を作ることにある。オスロのノーベル賞委員会はユヌス氏の平和賞受賞理由について、このように述べている。「持続的な平和は、大多数の人々が貧困から脱出する道を見出さないかぎり達成され得ない。民主主義と人権の前進にも役立つものである。」

6. グラミン銀行の提供するマイクロクレジットの今後の課題

1983年、グラミン銀行が無担保で最貧困層に小規模融資（マイクロクレジット）プログラム実施するようになった後、バングラデシュにおいて多くの非政府組織（NGO）が最貧困層に対してグラミン方式で小規模融資を提供するようになった。初めの頃、借り手が事業に失敗または安定的収入が得られなかった場合、毎週の返済状況が困難になった時、グラミン銀行の行員に返済スケジュール変更や新たなローンについて相談することは一般的だった。この頃、同地域でマイクロクレジットローンを提供している他の機関から小規模融資を受けて両方の返済が上手く出来ず債務者になっているケースも地域によって見られるようになった。本来は、最貧困層が無担保で小規模融資を受けて生活向上や自立するはずだ。しかし、毎週の返済能力を超えて二重のローンを借りることで返済が出来なくなり、場合によって自分の財産を売って返済をしなければならぬ状況になってしまうこともある。何故、最貧困層がこのような状況に直面することになるのだろうか。この研究を通じて明らかになったことは、マイクロクレジットローンを提供している機関間のネットワークがないので借り手が事業から安定した収入がなかったり、事業に失敗したり時、前に借りたローンの返済のために他機関から新規ローンを受ける時、既に小規模融資を受けていることを公表しない、ローンを提供している機関間のネットワークがないので新規ローンを提供する機関が把握できない結果、借り手は債務者としてローン地獄に落ちてしまう。引き続き、小規模融資を提供している機関と融資を受けている借り手の両方を調査し分析を行ない、それを基にこの問題に対し実施可能な提言・提案をしていくつもりである。

参考文献：

Grameen Bank, 'Monthly update' July 2015

Grameen Bank, 'Monthly update' June 2015

Grameen Bank, 'Monthly Update' June 2014

Jamadar, Naseer U. 'The Emergence of Credit in Development' Journal of International Development Studies, Vol. 5, 1996, pp.102-122

Yunus, Muhammad. 'Building Social Business' The University Press Limited, 2010, Dhaka

Yunus, Muhammad. 'We Can Put Poverty into Museums', 2006 in Oslo, Norway

Yunus, Muhammad. 'Social Business Entrepreneurs Are the Solution', 2006, Oxford University, UK

国連開発計画 (編), 吉田秀美 (訳) 「世界とつながるビジネス」英字出版, 2010年

国際開発ジャーナル 「国際協力用語集」 (2004年)

<http://www.grameen-info.org/>

<http://www.grameen-info.org/dialogue/index.html>